

第 2 章

統計データでみる福島県経済

第2章 統計データでみる福島県経済

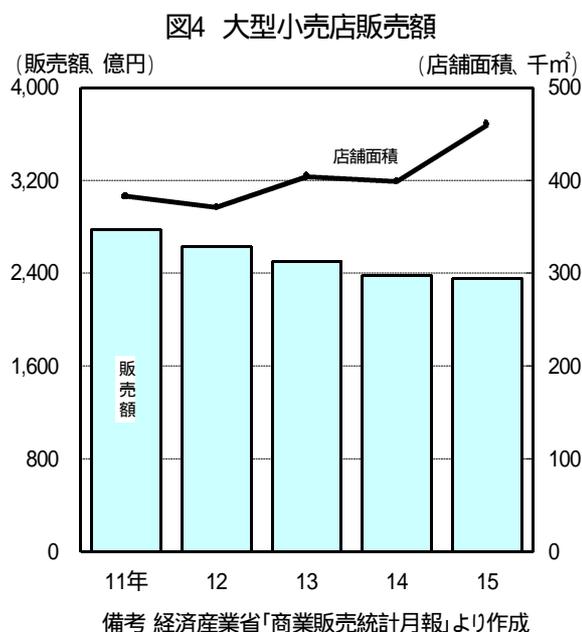
1 個人消費

(1) 大型小売店販売額

平成15年の大型小売店販売額は、消費者マインドの低迷や10年振りの冷夏、その後の天候不順の影響もあって、総額2356億200万円(全店舗ベース)となり、既存店ベースでは6年連続で前年を下回った。

業態別では、百貨店が531億21百万円(同前)となり、既存店での比較では3年連続前年を下回り、スーパーは1824億81百万円(同前)となり、既存店での比較では6年連続で前年を下回った。

なお、平成15年は大型店舗の出店が相次ぎ、調査対象店舗数は、72店舗となり3年振りに増加し、それにより店舗面積も15.3%増加した(図4)。



また、店舗の増減要因を取り除いた既存店ベースでの販売額の前年比をみると(図5)、平成15年は、前年比3.1%減となった。

これを販売額の約77%を占める衣料品と飲食料品についてみると(図7)、衣料品は年間を通して前年を下回り、年間で4.6%減となった。飲食料品は第4半期では前年を上回ったものの、第4半期以降は前年を下回り、年間では1.6%減となった。

業態別では、百貨店は身の回り品、飲食料品、その他の商品で第4半期には前年を上回ったものの、衣料品、家庭用品、食堂喫茶が年間を通して前年を下回ったことから、年間では2.8%減となった。スーパーは飲食料品が第4半期には前年を上回り、食堂喫茶が年間を通して前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、家庭用品、その他の商品が前年を下回ったことから、年間では3.2%減となった。一方、全店舗ベースでみると第4半期にはスーパーの新規出店が相次ぎ、販売額が前年を上回る動きがみられた。

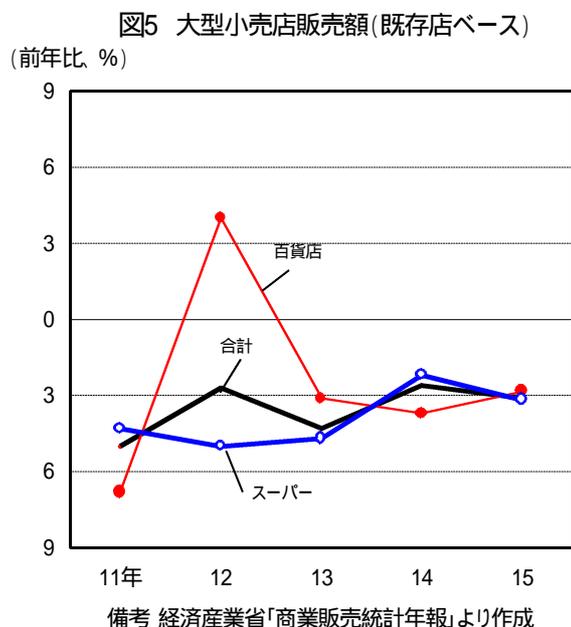
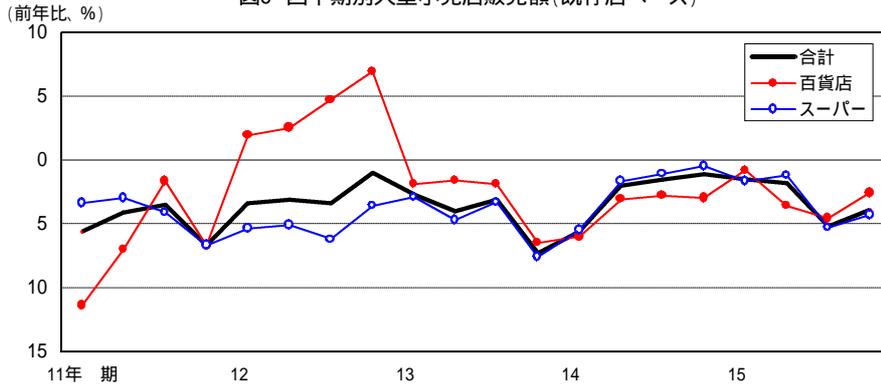
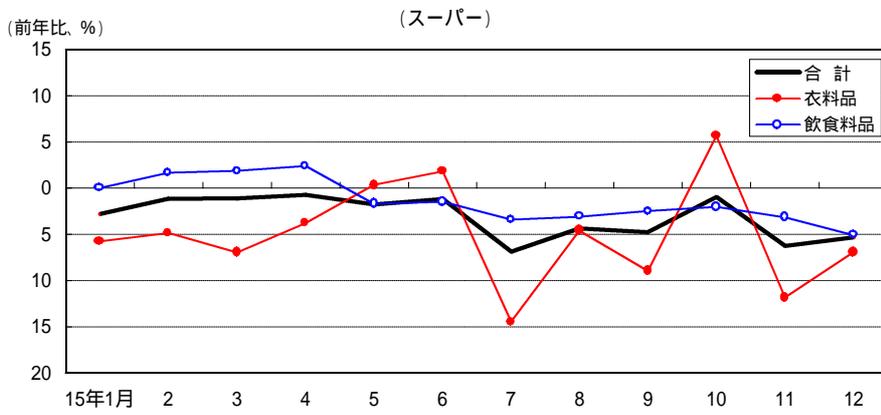
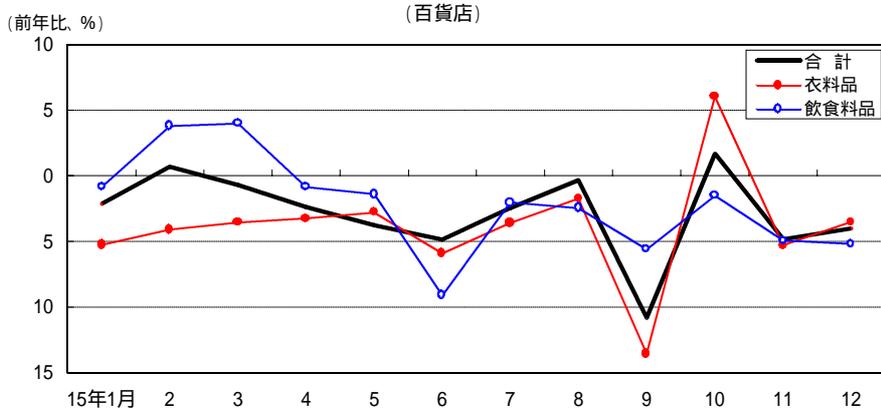
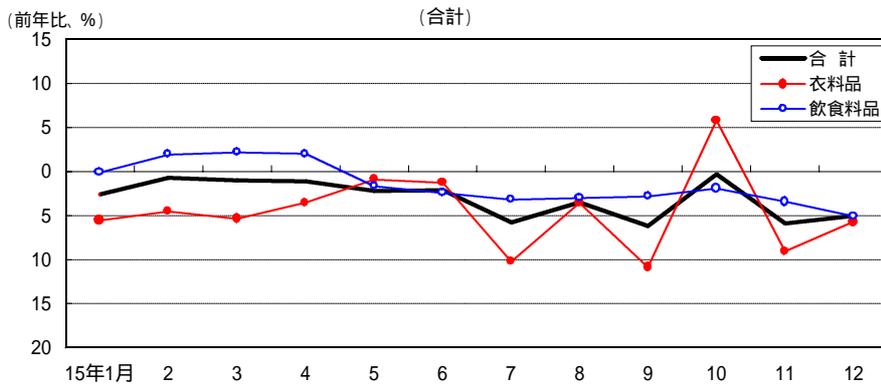


図6 四半期別大型小売店販売額(既存店ベース)



備考 経済産業省「商業販売統計月報」より作成

図7 月別大型小売店販売額(既存店ベース)



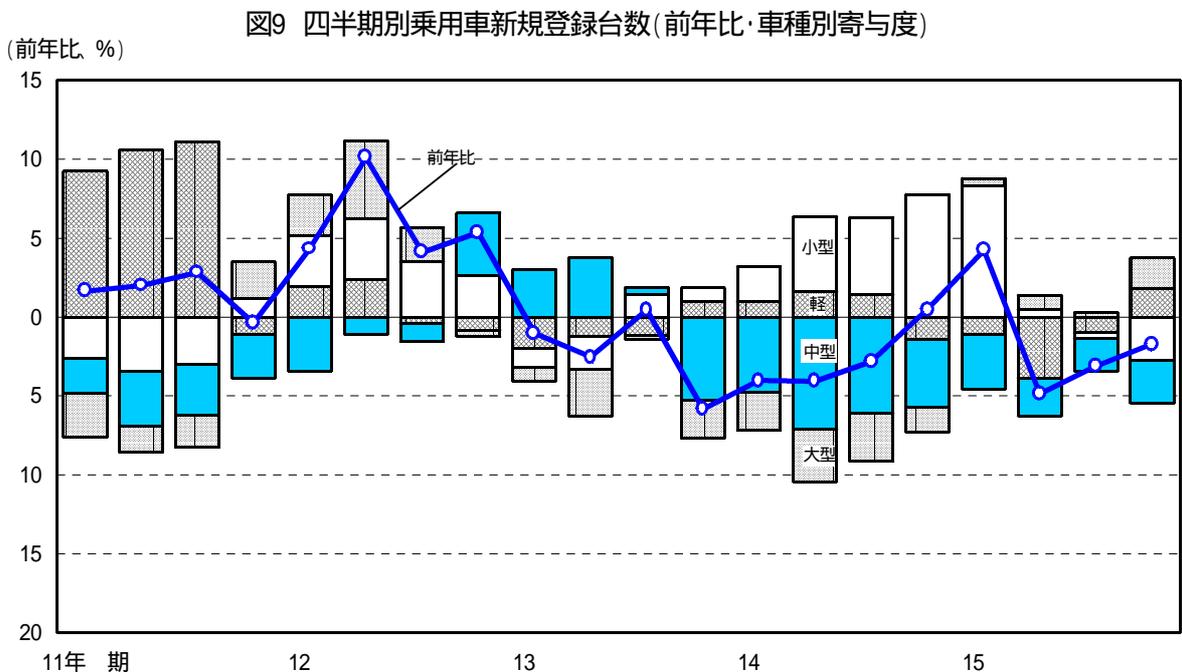
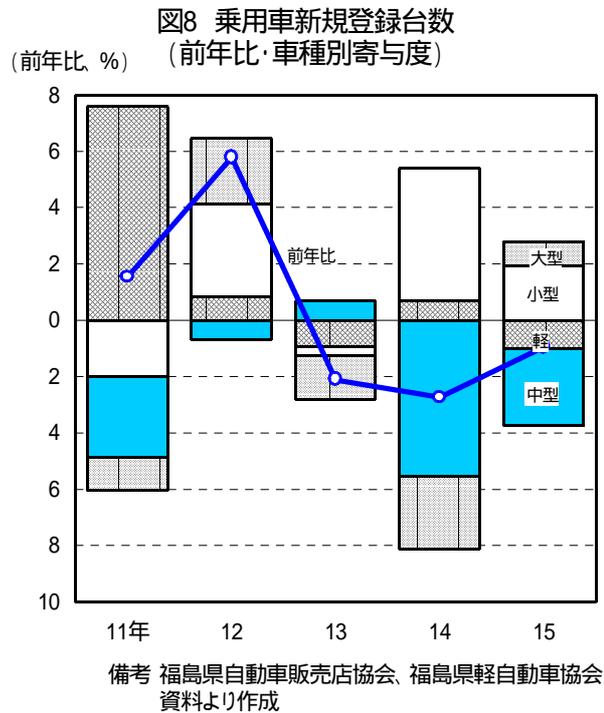
備考 経済産業省「商業販売統計年報」より作成

(2) 乗用車新規登録台数

平成 15 年の乗用車新規登録台数は 76,354 台となり前年に比べて 0.9%減少し、前年より減少幅は縮小したものの 3 年連続で前年を下回った。

車種別にみると(図 8)、大型車が 6.3%、小型車が 6.0%、前年を上回ったものの、中型車が 11.2%減、軽自動車が 3.4%減となり前年を下回った。

四半期別にみると(図 9)、第 四半期は小型車(660cc 超 1500cc 以下)の好調な販売や自動車税制の変更による駆け込み需要などから前年を上回る動きがみられた。しかし、第 四半期以降は、モデルチェンジした大型車(2000cc 超)が、第 四半期からは軽自動車(660cc 以下)の登録台数が前年を上回ったものの、中型車(1500cc 超 2000cc 以下)、小型車の登録台数が減少したため、3 期連続で前年を下回った。



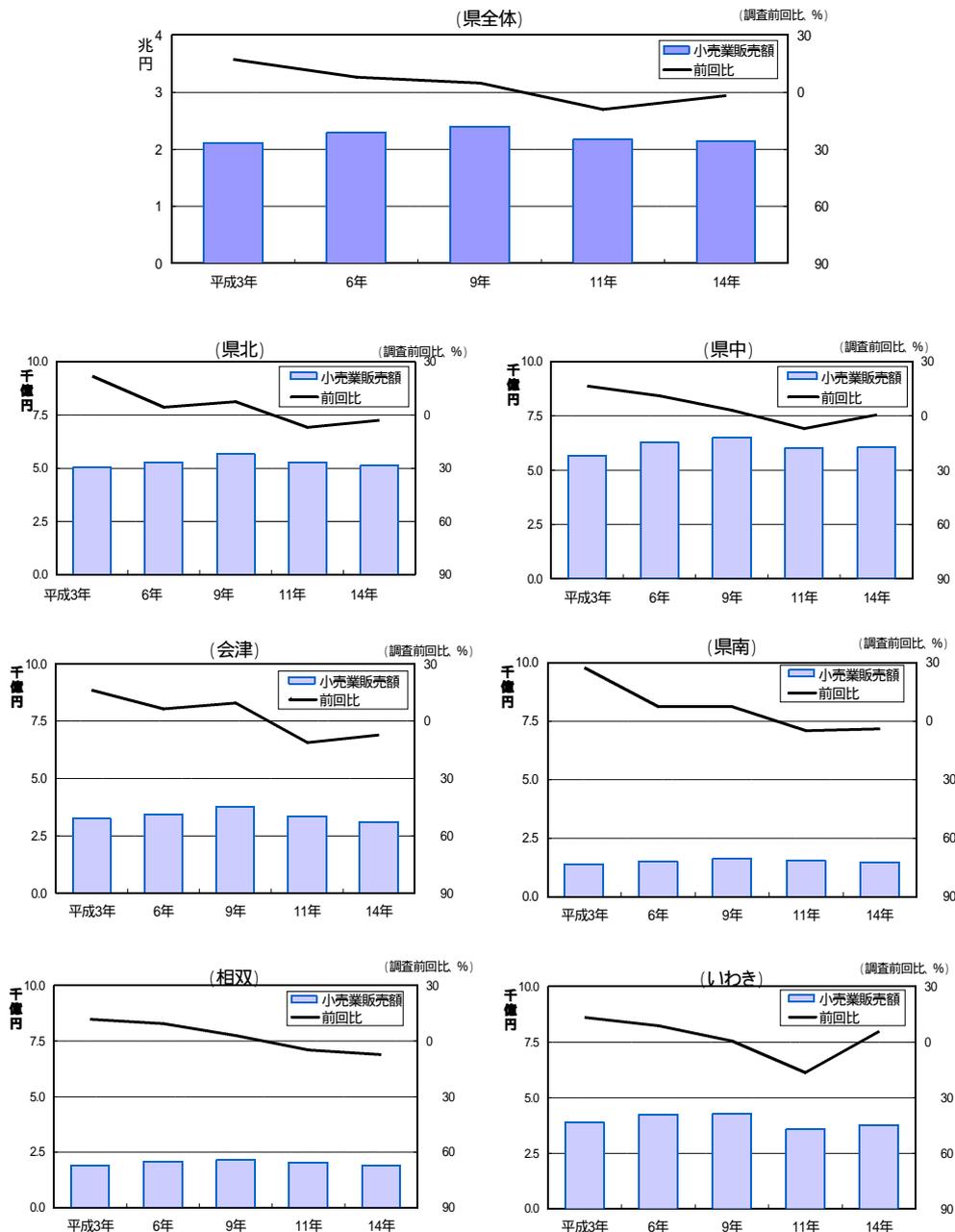
(参考) 県内各地域の主な指標の動き

(1) 小売業販売額

商業統計調査により福島県の小売業年間販売額をみると近年 2 兆円台で推移しており、平成 11 年からは減少傾向がみられる。

地域別にみると(図 10)、県中地域が最も販売額が多くおよそ 6 千億円前後で推移している。次いで県北地域がおよそ 5 千億円以上、いわき地域がおよそ 4 千億円前後、会津地域がおよそ 3 千億円前後で推移している。平成 14 年の販売額を、前回の調査結果(平成 11 年)と比べると、県中地域といわき地域で前回調査結果を上回っている。

図10 地域別小売業販売額(前年比)の推移



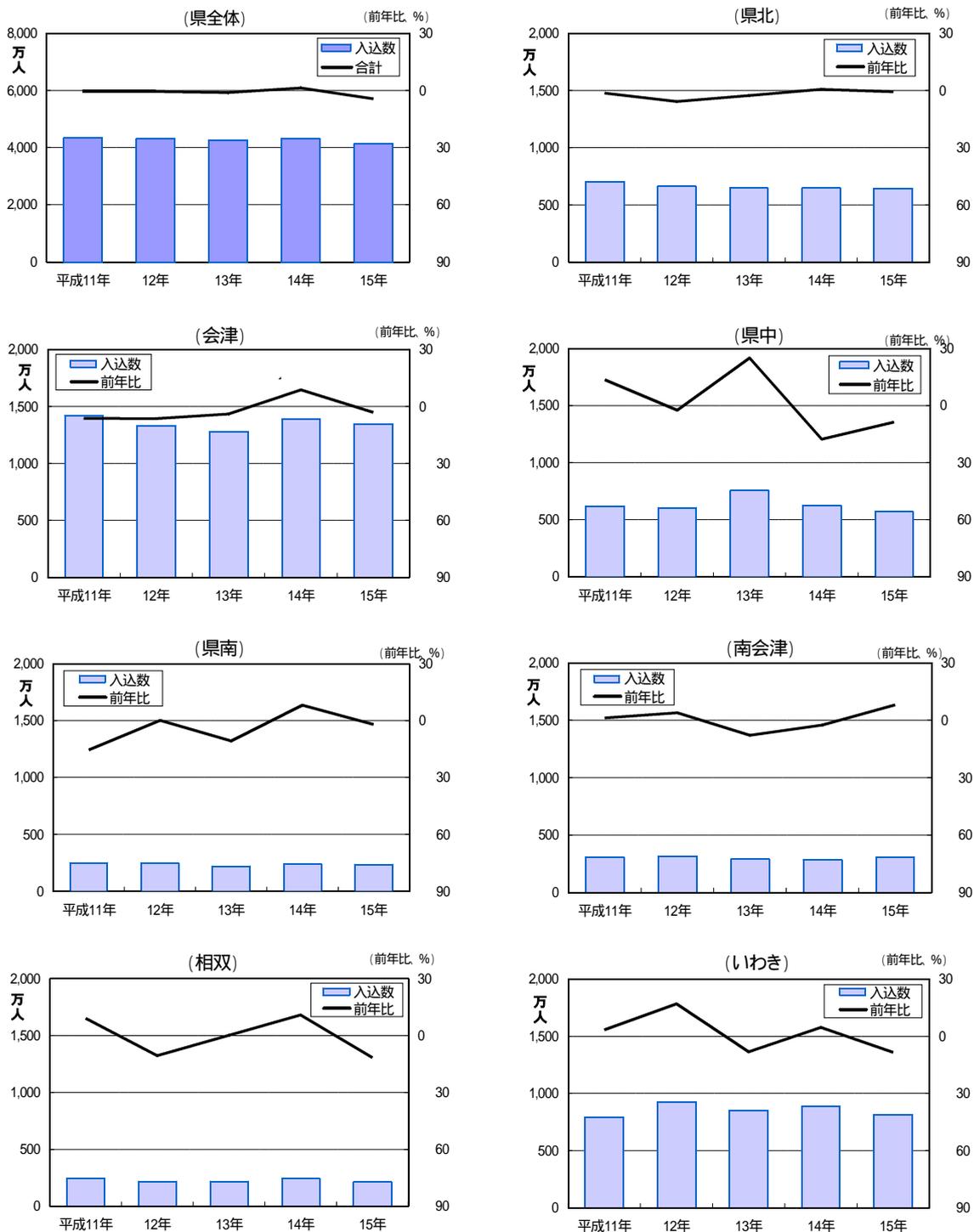
備考 福島県企画調整部 情報統計領域 産業統計グループ 商業統計調査結果報告書より作成

(2) 観光客入込数

福島県内の観光客入込数は近年およそ 4,300 万人台前後で推移していたが(図 11)、平成 15 年は天候不順の影響もあって 4,132 万人となり2年振りに前年を下回った。

地域別にみると、南会津地域では前年を上回ったものの、他の地域では前年を下回っている。

図11 地域別観光客入込数(前年比)の推移



備考 福島県商工労働部地域経済領域観光グループ 観光客入込状況より作成